



# 西之表市

## 市制施行60周年



鹿児島県 種子島 西之表市

# 目次

市制施行 60 周年を迎えて（市長挨拶）	1
西之表市の紹介	2～3
市制施行 60 周年ロゴマーク	4
市制施行 60 周年記念 市民表彰、特別表彰	5～7
記念イベントのご紹介	8～13
私のふるさと	14～38
西之表市の歩み	39～51
思い出のアルバム（表紙に使用した写真）	52～54
市民憲章、市民の歌	55

## 市制施行 60 周年を迎えて（市長挨拶）



1958年（昭和33年）10月1日、わがまちは西之表町から西之表市となりました。

戦後の混乱期を終え、東京タワーが完成し、1万円札が発行された時代です。

本市も、人口が増加し、伊関小学校や住吉中学校の校舎等が整備されるなど、活気のある時代でした。

その後、日本は高度経済成長から、安定成長へ、そして、地方の時代が叫ばれるときを経て、ふるさと創生、地方創生の時代へと進みます。

その中で、本市は、鉄砲伝来の史実で知られ、ロケット基地を擁する種子島の中にあり、種子島・屋久島などの離島で構成する熊毛地域のなかで、中心的な役割を果たしながら発展してきました。

一方で、就業構造の変化、少子高齢化など、課題を抱えてはおりますが、住む人々の人情は温かく、気性は温和で、みんなで協力しながらこのまちを作り上げてまいりました。

今回の市制施行60周年事業の計画については、昨年度より各種団体に参加いただいて、記念事業実行委員会を立ち上げ、実務面では運営委員会で各界の専門の皆様の見解を伺いながら、事業を構築してまいりました。

協力いただいた、市民の皆様には衷心よりお礼を申し上げます。

記念事業を進めるに当たり、先人の築いてきた西之表市の歴史の価値を確認しながら、「種子島は一つ。熊毛は一体」との思いを胸に、未来に向けた一歩をすべての市民の皆様とともに踏み出そうと考えております。

今後、より一層の市政への参加、協力をお願いいたします。

最後になりましたが、これまでの市政運営にご協力をいただきました国会議員、県議会議員の方々、鹿児島県をはじめ関係官庁、関係機関、各種団体の皆様や、なによりも普段西之表市を支えてくださる市民の皆様、お一人おひとりに感謝を申し上げ、挨拶といたします。

平成31年3月

西之表市長 八板 俊輔

## 西之表市の紹介

### 【西之表市の沿革】

種子島の名は古く天武6年(677年)に史書「日本書紀」上に現れ、隋・唐と日本を結ぶ南方ルートの港として重要な位置を占めていました。鎌倉時代に入り、種子島は上之郡・中之郡・下之郡の3郡に分けられ、このうち上之郡が現在の西之表の行政区にあたるものと推定されています。

西之表の呼び名は、その昔、島主種子島氏の居城があった「赤尾木」から、安政年間(1854～1860年)頃には、「西之表」と呼ばれるようになり、次第にこの呼び名が上之郡全域を代表するようになりました。

また、明治22年(1889年)4月の町村制実施に伴い、西之表に郡役所が置かれ、上之郡8村(西之表、国上、住吉、現和、安城、伊関、古田、安納)を1村に編成し、「北種子村」が生まれました。その後、大正15年(1926年)4月には西之表町となり、昭和33年10月1日には、市制特例法により市制を施行して、現在の「西之表市」が誕生しました。

以来、国・県等の出先機関の多くが西之表市に集まり、行政、経済、文化、産業の中心地として成長を続けています。

### 【市章】(昭和33年11月1日制定)



「西」の文字の図案化であり、外側円形は海岸線を表し、鋭角に伸びる△形は、市の飛躍的發展を表します。

### 【シンボルマーク】(平成20年10月1日制定)

市の花「鉄砲ゆり」と市の蝶「ツマベニチョウ」、種子島をイメージさせる「波」がモチーフとなっています。



### 【姉妹都市・友好都市】

#### ・姉妹都市

ヴィラ・ド・ピスポ市(ポルトガル共和国)

平成5年10月1日盟約

鹿児島県伊佐市

平成21年5月16日盟約

(鹿児島県菱刈町)

昭和37年11月9日盟約

(鹿児島県大口市)

昭和37年11月10日盟約

※大口市、菱刈町は、平成20年11月1日合併し、伊佐市となりました。

・友好都市

大阪府 堺市

滋賀県 長浜市

昭和 61 年 10 月 18 日 盟約

昭和 62 年 10 月 8 日 盟約

【市の花】てっぼうゆり（ゆり科）

<昭和 53 年制定・市制施行 20 周年>

市内の原野に自生し、栽培も容易なため、庭園用としても広く鑑賞されています。その形状から名付けられたともいうてっぼうゆりは、種子島銃を連想させ、清楚な純白と高い香りから種子島の歴史性を感じます。



【市の木】あこう（くわ科）

<昭和 53 年制定・市制施行 20 周年>

あこうは、市内に広く分布する雌雄異株の常緑高木。天に伸びる生命力は市の発展を、また根を出し、それが地中に入って新しい樹幹となる活力は「市民の強くたくましい姿」を、幹と幹が重なり合って大地に立つ姿は「市民の協調と連帯」を連想させます。



【市の花木】ぶっそうげ（あおい科）

<昭和 53 年制定・市制施行 20 周年>

夏の種子島を代表とする花木。青い海、緑の大地をバックに真っ赤に咲き乱れる姿は、南国情緒豊かです。繁殖も容易で、開花期間も長く島の気候風土に適しています。



【市の蝶】ツマベニチョウ（シロチョウ科）

<昭和 53 年制定・市制施行 20 周年>

古くから親しまれている蝶の中で、最も美しいとされているツマベニチョウ。市の花木「ぶっそうげ」の花から花へ飛び交う風情は南国的です。

西之表市市制施行 60 周年記念事業  
ロゴマーク決定作品



西之表市は **60** 周年

コンセプト

西之表市の花「てっぼうゆり」をメインに「60」の文字を構成。  
自然や文化の豊かさと人々の暖かさを、下の曲線とオレンジの丸で表現。  
緑から白へのグラデーションで、未来への先進的な変化を表現。

制作 西之表市立種子島中学校美術部 様

平成 30 年 3 月 23 日西之表市市制施行 60 周年記念事業実行委員会

## 市民表彰（順不同・敬称略）

### 地方自治部門

氏名	功績
中野 幸太郎	平成17年度から26年度まで10年間、榕城校区行政連絡員及び市区長会会長を務められ、地域・市民と行政のパイプ役として市民福祉の向上に貢献されました。
榎元 一已	平成9年から市議として5期約19年8月、議長・副議長を歴任するなど長きにわたり、本市の地方自治発展のために大きく貢献されました。
小倉 伸一	平成9年から市議として5期約19年11月、議長を務められるなど長きにわたり、本市の地方自治発展のために大きく貢献されました。
野口 寛	昭和48年から8期31年、平成21年2月から3年、通算34年市議を務められ、本市の地方自治発展のために大きく貢献されました。
有馬 千穂子	平成4年から24年間の長きにわたり、選挙管理委員補充員及び委員を務められ、うち19年間は明るい選挙推進協議会委員を務め、明正選挙の推進に貢献されました。
鮫元 ミツ子	平成10年から20年以上の長きにわたり、明るい選挙推進委員を務め、明正選挙の推進に貢献されています。
榎本 和枝	平成10年から20年以上の長きにわたり、明るい選挙推進委員を務め、明正選挙の推進に貢献されています。

### 教育文化スポーツ部門

氏名	功績
鮫嶋 安豊	種子島・西之表市の歴史文化全般に精通する本市歴史研究の第1人者。文化行政の委員を歴任され、種子島の歴史文化全般の研究を続けながら、文化財を活かした本市の観光行政にも貢献されています。
砂坂 敏	自らも陸上選手として活躍し、市陸上競技協会、市体育協会の役員、県下一周駅伝競走大会の熊毛地区役員などを長きにわたり歴任され、本市のスポーツ振興及び競技力向上に貢献されました。

### 保健福祉部門

氏名	功績
宮村 次三郎	昭和52年から36年の長きにわたり民生委員・児童委員、その任期中には会長も務められ、地域福祉の向上に尽力されました。また地域の世話役や保護司としても社会福祉の活動を推進されました。
長山 シノ	昭和55年から37年以上の長きにわたり、民生委員・児童委員を務められ、地域福祉の向上に尽力されています。また市社会福祉協議会の評議員を務め、ボランティア活動を行うなど社会福祉活動にも熱心に取り組みされました。
尾山 輝三郎	昭和61年から24年の長きにわたり、民生委員・児童委員を務められ、地域福祉の向上に尽力されました。会長の任期中には、協議会の円滑な運営に尽力し、他の委員の模範となる活動をつづけ、地域福祉に貢献されました。

川野 格	平成 10 年から 20 年以上の長きにわたり、民生委員・児童委員、その任期中は市民生委員児童委員協議会会長も務められ、地域福祉の向上に尽力されています。また保護司としても、犯罪や非行防止に努め、明るい社会づくりにも貢献しています。
小牧 鐵徳	平成 15 年に市老人クラブ連合会副会長に就任以来、老人クラブの運営に携わり、平成 24 年に会長に就任した後も、会のリーダーとして老人クラブの組織強化や会員加入促進に尽力されています。
吉田 敏子	平成 10 年から 20 年の長きにわたり、人権擁護委員として、人権相談、人権啓発活動に従事され、特に学校では児童生徒はもとより、教職員の意識の高揚や指導者としての育成、資質向上への取り組みに尽力されました。
西村 建二	平成 16 年から 15 年の長きにわたり人権擁護委員として、人権相談、人権啓発活動に従事され、特に学校では児童生徒はもとより、教職員の意識の高揚や指導者としての育成、資質向上への取り組みに尽力されました。
田上 容祥	熊毛地区医師会長などを歴任され、学校医や介護認定審査会会長など、医療・介護の両面で、市民の健康福祉行政に貢献されています。
西之表市食生活改善推進員連絡協議会	昭和 41 年、委嘱された西之表市栄養改善推進員 20 名が推進員相互の連携をはかるため、昭和 50 年 11 月に結成されたことが始まり。以来 43 年にわたり、市民の健康水準向上のため食育推進活動に尽力しています。中でも、「市政の窓」の地元食材を使用した料理レシピの紹介や郷土料理集「うんまかえ」発行など、市民の食育推進、郷土料理の伝承に大きく貢献されています。現在、会員 30 名。

産業経済部門

氏 名	功 績
福井 清信	平成 24 年から長きにわたり、市商工会長を務め、地域商工振興に貢献されました。また、市消防団長や保護司、種子島火縄銃保存会会長など、多方面で活躍されています。
西之表市猟友会	昭和 53 年に設立以来、有害鳥獣の捕獲活動に尽力されています。特に近年はシカの個体数が増加し農作物被害が発生する中、捕獲活動の推進により被害を最小限にとどめるなど、農作物被害防止に大きく貢献されています。現在、会員 64 名。
宇辰 政俊	平成 6 年から 24 年の長きにわたり種子島漁協代表理事組合長などを務め、種子島の漁業振興に大きく貢献されました。また、熊毛海区漁業調整委員会会長として県全体の漁業振興にも大きく貢献されました。
日高 三男	平成 7 年から 22 年の長きにわたり、市園芸振興会会長等を務め、輸送野菜の産地基盤を強固に築き上げ、本市の園芸振興に大きく貢献されました。また種子島営農大学の設立時から校長に就任され、新規就農者や担い手育成に尽力されました。



氏名	功績
荒牧 隆昭	昭和49年に消防分団員を拝命以来、39年以上在籍し、その間には国上分団長を務められ、地域消防の発展に尽力されました。
小倉 康	昭和59年に消防分団員を拝命以来、33年以上在籍し、その間には榕城分団長を務められ、地域消防の発展に尽力されました。
栗田 由一	昭和53年に消防分団員を拝命以来、34年以上在籍し、その間には古田分団長を務められ、地域消防の発展に尽力されました。
上妻 宗四郎	昭和52年に消防分団員を拝命以来、33年以上在籍し、その間には古田分団長を務められ、地域消防の発展に尽力されました。
下江 光男	昭和48年に消防分団員を拝命以来、32年以上在籍し、その間には伊関分団長を務められ、地域消防の発展に尽力されました。
日高 鉄男	昭和36年に消防分団員を拝命以来、42年以上在籍し、その間には西之表消防団副団長を務められ、地域消防の発展に尽力されました。
古田 新一	昭和53年に消防分団員を拝命以来、33年以上在籍し、その間には伊関分団長を務められ、地域消防の発展に尽力されました。
古田 嗣男	昭和51年に消防分団員を拝命以来、40年以上在籍し、その間には西之表消防団副団長を務められ、地域消防の発展に尽力されました。
松井 通容	昭和42年に消防分団員を拝命以来、44年以上在籍し、その間には榕城分団長を務められ、地域消防の発展に尽力されました。
松岡 勝見	昭和44年に消防分団員を拝命以来、36年以上在籍し、その間には中割分団長を務められ、地域消防の発展に尽力されました。
山田 利光	昭和56年に消防分団員を拝命以来、30年以上在籍し、その間には安納分団長を務められ、地域消防の発展に尽力されました。

### 特別表彰 (敬称略)

本表彰は、西之表市を思い、応援をいただいている方を特別に表彰するものです。

氏名	功績
下野 敏見	高校教諭として種子島に赴任して以来、集落の古老から日常生活の様子や風習、年中行事、芸能などを聞き取り、種子島の民俗史を記録し続けられました。 同氏が、豊かな種子島の民俗文化を記録として書き留め、後世に伝えてきたことで、私たちは今もその風習や芸能の内容を知ることができます。また、種子島開発総合センター鉄砲館の常設展示へのご指導や郷土芸能大会の解説など、本市の教育行政に大きく貢献してくださりました。

## 記念イベントのご紹介

### TANEGASHIMA CUP ヨットレース



平成30年4月29日(日)、第12回種子島カップヨットレースを開催しました。

山川沖を目指し、15艇のヨットが美浜海岸沖を出発。この日は、ヨットを進めるには風が弱く、スタート付近でヨットが停滞する状況。その後全艇スタートを切ったものの、ゴールへ到達する艇が出ず、ノーレースとなりました。

28日(土)には、種子島ヨットまつりを開催。60周年を記念し、大会開始から12回連続で出場している2艇に記念賞を授与しました。

### こどもまつり

市制施行60周年記念餅まきとお菓子まき



平成30年5月6日(日)、市商工会青年部主催の種子島鉄砲村こどもまつりが行われました。

会場では、警察・消防・高所作業車の試乗体験、火縄銃兵衛とのボーリング対決や、まちなかろくがきストリート、さんりんしゃ競争など、たくさん催しが行われました。

また、60周年を記念し、「餅まきとお菓子まき」を午前、午後の2回開催。餅やお菓子がまかれるトラックの前にはたくさん子どもたちが集まり、「こっちにも!」と元気良く手を伸ばしていました。

### 種子島鉄砲まつり

太鼓山



火縄銃保存会による試射

平成30年8月19日(日)、第49回種子島鉄砲まつりを開催しました。

市中パレードでは、太鼓山、女山車、南蛮行列、子供みこしがまち中を練り歩き、種子島火縄銃保存会、堺火縄銃保存会、国友鉄砲研究会による火縄銃の試射も行われました。また、整った隊列での団体手踊りや、趣向を凝らした宣伝パレードも披露され、にぎわいを見せました。

演芸大会では、ダンスや日本舞踊、カラオケやエイサーなど、観客も巻き込むパフォーマンスが披露され、会場を盛り上げました。

フィナーレでは、約8000発の花火と、市制施行60周年を記念して打ち上げられたナイアガラの花火が赤尾木の夜空を彩りました。

## 市民体育祭

60歳代60m走



60周年記念体育祭聖火の点火

## 小川智裕選手エキシビジョンレース



平成30年10月7日(日)、第56回西之表市民体育祭を開催しました。

60周年記念として、関東種子島会寄贈の聖火トーチを手に、市内の小・中学生が聖火リレーを行いました。また、60歳代男性による60m走、招待選手として小川智裕選手(鹿児島南高等学校3年・安城出身)を招聘し、エキシビジョンレースを実施。各選手、懸命の走りで会場を盛り上げました。

大会は、「男女共通1500m走」、「小中学生800mリレー」、「男女混合総合リレー」で記録を更新。結果、Aブロックで伊関が32連覇。Bブロックでは榕城上が平成元年以来の優勝。両チームに、60周年記念で新調した優勝旗が手渡されました。

## 市民文化祭



マリオネットによる公演



平成30年11月3日(土)、4日(日)、第47回市民文化祭が開催されました。

市民会館で行われた舞台部門では、2日間で75のプログラムが披露され、展示部門には書道、文学、写真、華道などの部門から7団体が出展しました。

月窓亭では茶道実演が行われ、来場者は、お茶とお菓子、和やかな雰囲気、笑顔が浮かべました。

また、市制施行60周年、ヴィラ・ド・ビスポ市(ポルトガル)との姉妹都市盟約25周年を記念して、「マリオネット」の2人による公演が行われました。

ファド(ポルトガル民謡)などが披露され、ポルトガルギターやマンドリンなどの情緒あふれる音色に聴き入りました。

## ふるさとフェスタ・商工フェスティバル



積み木タワー高く積み上げました



火縄銃試射



仮設住宅構造材キットから餅まき



安納いもタワー



種子島産材で作った積み木



安納いも無料配布



銃兵衛、わかさ姫と記念撮影



おたのしみ大抽選会



カフラオアイナオカラー フラダンス



下西小金管バンド演奏



市民表彰、県民表彰表彰式

平成30年11月25日(日)、「ふるさとフェスタ」を開催しました。

60周年を記念し、「種子島鉄砲村商工フェスティバル」、「郷土芸能フェスティバル」、「種子島西之表市いけばな展」を同時開催し、盛大に実施しました。

開会セレモニーでは、市民表彰式を行い、市政に貢献された方々へ表彰状を贈りました。

その後、火縄銃の号砲でスタートすると、この日は2000人以上の方が会場を訪れました。会場中に設けられた特産品の販売や地元企業の出店ブースは多くの方で賑わい、ステージ上のアトラクションや大抽選会なども大盛り上がりとなりました。

## 郷土芸能フェスティバル



安納棒踊 (安納)



種子島大踊 (現和)



寺之門花踊 (国上)



住吉源太郎踊 (住吉)



田之脇棒踊 (現和)



ヨンシー踊 (現和)



横山盆踊 (上西)



洲之崎どすこい踊 (榕城)



古田棒踊 (古田)



古田獅子舞 (古田)



兵児踊 (現和)

平成 30 年 11 月 25 日 (日)、市制施行 50 周年の際に行われて以来 10 年ぶりとなる「郷土芸能フェスティバル」を開催しました。

60 周年記念の今回は、市内 11 団体が、各地域に伝わる伝統芸能を披露しました。

3 月に国選択無形民俗文化財となった「横山盆踊」や、衣装を新調し 6 年ぶりの披露となった「住吉源太郎踊」も踊られました。

普段、このように郷土芸能を一度に鑑賞する機会は少なく、芸能披露会場に多くの来場者が注目し、各地域の特色ある芸能を楽しみました。

## 種子島 西之表市いけばな展



平成 30 年 11 月 24 日 (土)、25 日 (日)、「種子島 西之表市いけばな展」を開催し、約 1600 人の方が訪れました。

県連合華道会 17 流派と市内 4 団体 (池坊すみれ会、寿大学いけばなクラブ、秋桜倶楽部、ふるさとまなび~隊)、中種子町 1 団体の華道団体による作品 115 点を展示。

華やかに彩られた会場で来場者は、花器や花材、季節感や雰囲気を楽しみました。

24 日に行った体験教室には、180 人の方が参加。連合華道会の先生方に教わりながら、「いけばな」を体験しました。

## NHK おかあさんといっしょ 宅配便ガラピコぶ〜小劇場



平成 30 年 12 月 9 日（日）、「～市制施行 60 周年記念事業～NHK おかあさんといっしょ 宅配便ガラピコぶ〜小劇場」を開催しました。

この日は、午前と午後 2 回公演で、合わせて約 270 組が来場。

うたのおねえさんやガラピコぶ〜の仲間たちの歌、踊りに合わせて、会場の子どもたちも楽しそうにとんだり跳ねたりしていました。

会場の外にはガラピコぶ〜のぬいぐるみとの記念撮影ブースが設けられ、来場者は笑顔を活かしながら、この日の思い出を写真に収めていました。

## 歴史シンポジウム 「種子島と東アジア海域」



全体討論の様子



史料見学会の様子

平成 31 年 3 月 10 日（日）、歴史シンポジウム「種子島と東アジア海域」を開催しました。

午前中には、2 回に分けて鉄砲館及び種子島時邦氏所蔵の史料や西村天因にまつわる品々の見学会を開催。屋良健一郎准教授（名城大学）が古文書などについて説明を行いました。

午後からは、村井章介教授（立正大学・東京大学名誉教授）、伊川健二教授（早稲田大学）、屋良健一郎准教授、村川元子氏（松寿院研究家）がそれぞれ登壇。アジア、琉球、南蛮との関わりや、幕末の種子島について講演、研究報告を行いました。

その後、鮫嶋安豊参与（鉄砲館）が加わり全体討論を実施。後世に伝えたい種子島の歴史について熱く語りました。



村井教授「アジアのなかの種子島」

## にしのおもて市民フェア

平成 31 年 3 月 3 日 (日) 第 30 回にしのおもて市民フェアで、特別講演「種子島から世界へ - 西村天囚の偉業 -」を実施しました。

種子島出身の漢学者西村天囚(にしむらてんしゅう)は、東京大学官費生を経て、大阪朝日新聞の記者となり、コラム「天声人語」の名づけ親とされるジャーナリストとなった人物です。

また、江戸時代の漢学塾「懐徳堂」の復興運動を主導し、大阪の地に懐徳堂を再興しました。西村家に残されている多くの書籍類からは、天囚の広範な知のネットワークについても語られました。天囚が亡くなって間もなく 100 年。日本近代文化の発展に寄与した天囚の偉業を振り返りました。

### 講師：湯浅邦弘 (ゆあさくにひろ) 大阪大学教授



- ・昭和 32 年、島根県出雲市生まれ。
  - ・大阪大学大学院修了。博士 (文学)。
  - ・北海道教育大学、島根大学を経て、現在、大阪大学大学院文学研究科教授。
  - ・専門は中国思想。大阪大学の誇る漢籍コレクション「懐徳堂文庫」の調査研究にも従事。
  - ・平成 29 年、種子島の西村家において西村天囚関係資料の調査を実施、その様子が新聞各社に取り上げられた。
  - ・平成 30 年も資料調査を続行。
- 12 月に、西村天囚に関するシンポジウムを大阪で開催。

### 「天声人語の名づけ親・西村天囚が見た近代日本」

【期日】平成 30 年 12 月 8 日 (土) 13:00 ~ 16:00 【定員】250 名

【場所】中之島会館 (大阪市北区中之島・中之島フェスティバルタワーウエスト)

【主催】懐徳堂記念会、大阪大学大学院文学研究科、朝日新聞社 【パネリスト】八坂 俊輔 西之表市長

西村天囚 (慶応元年 1865 年 ~ 大正 13 年 1924 年) とは…

慶応元年、鹿児島県西之表市に生まれる。出生地は現：種子島開発総合センター。

名は時彦 (ときつね)、号は天囚または碩園 (せきえん)。亡父の親友、前田豊山に学ぶ。

明治 9 年 11 歳で藩校種子島学校に入学。

明治 13 年上京。明治 16 年東京大学古典講習科に入学。

明治 20 年『肩屋の籠』で一躍文名をあげる。

明治 23 年大阪朝日新聞入社。明治 43 年懐徳堂記念会を創設。大阪朝日新聞に「懐徳堂研究」を連載し、顕彰に努めた。

大正 5 年から京都大学講師として『楚辞』等を講義した。

大正 8 年大阪朝日新聞社退社。大阪懐徳堂の再建に尽力。

京都帝国大学漢文学講師、「日本宋学史」ほか著書多数。

大正 10 年には宮内省御用掛となって東京へ移り住んだ。勅語や詔書を起草。

大正 13 年 7 月逝去。









## ～私のふるさと～

市制施行 60 周年を迎えるにあたり、各校区の校区長さんや小学校の児童のみなさんに「私のふるさと」と題して各地域を紹介するページを作成していただきました。

内容は、校区の歴史や伝統行事、各地域に伝わる昔話やおすすめスポットなど様々です。

また、「こんな校区になってほしい」という将来の展望も描かれています。

それでは、各校区のふるさと自慢をご紹介します。



# みいよ たっぴい 榕城校区

<制作メンバー>

のぎき ゆめ おきた こうき

まつもと ゆい いしどう さな

～榕城校区の紹介!～

わたしたちの住む榕城校区は、西久表市の中心地にあります。港や市役所、図書館や商店街など、人や施設が多い、活気あふれるまちです。

そんな榕城校区に住んでいることがちょっぴりじまんです。ぜひ、いらしてください!

## わたしたちの学校～榕城小学校～

わたしたちが通う榕城小学校は今年で創立142周年の歴史のある学校です。赤尾木城という城あとに建てられ、正門の所には今でもその石垣がのこっています。



# 種子島時堯像

種子島と言えばやはり鉄砲の伝来。ポルトガル人から、鉄砲を贈り、康徳にその使い方や作り方を教はせ日本の歴史を大きく変えました。その種子島時堯像もわたしたち木容城校区にあります。



## 金矢石包館(種子島開発総合センター)

たくさんのお土産の金矢石包持ちろん種子島の歴史について知ることが出来ます。南蛮船をイメージした建物が特ちょう的です。



## 西之表港

高速船やフェリーなどを通じて、多くの人やものが集まります。まさに種子島の玄関口です。わたしたちの校区は、そんな活気のある地域です。



## これからの木容城校区～未来に向けて～

わたしたちが住む木容城校区は、名所や施設、そして住んでいる人たちもみんなすてきな、魅力がいっぱいの地域です。これからもこの地域の歴史やよさを守り続けながら、今度はわたしたちの力で新しい歴史をつくっていきます。

元 気 い っ ぱ い

上西校区には、大花里、花里崎、大崎池

中でも、大花里にある伊勢神社がオススメポ



伊勢神社には、天照皇大神

い事をかなえてくれるそう

祭、7月の夏季大祭、10月の

とがあります。伊勢神社は、山の上にあるの  
神社の近くから見える景色は、とても迫力があ  
の光が当た、てきれいです。伊勢神社は、平安  
いせさま」と呼ばれ、地域のシンボル、地元行事  
から親しまれています。昭和45年にたてられ  
年に屋根を神明づくりとする木造へ再建されま  
宮の式年せん宮に伴う古材のじょう与を受ける

今の上西校区は人が少ないので、校区外の  
のために今あるたくさんの行事をおんなで協力

# 上西校区

久保、萩之峯、横山の6つの地域があります。

トです。


神と豊受姫大神がまつられていて、みんなの願  
す。また、1月1日の元旦祭や、3月の春季大  
秋季大祭などが行われ、それ以外にも月次祭な  
で、141段の階段を登らないと行けません  
り、特に晴れた日は、海に太陽  
時代に起源を持ちます。「お  
の中心施設として多くの人々  
た社が塩害の影響を受けていたので、平成28  
した。再建に際し、材料の一部として、伊勢神  
ここかでき、拜殿の両脇などに使っています。  
人たちがたくさん集まるようにしたいです。そ  
して守りたくさんアピールしていきたいです。



# 私達の

西ノ海かじろう  
第二十五代横綱  
西ノ海かじろう  
本名牧瀬休八は  
明治13年(1880)  
川むかえに生ま  
れました。幼い  
頃から体が大き  
く力の強か。た  
休八は当時盛ん  
に行われていた  
種子島相撲でも  
圧とう的な強さ  
で評判でした。

## 下西小クイズ!

1  この校舎の形は、何をイメージしてつくられたでしょう。

- ① ホルトガル船
- ② 鉄砲
- ③ ドライヤー

② 校舎の色の意味は  
次のうちどれでしょう。

- ① 明るい
- ② たくましい
- ③ かしこい

クイズの答え  
1…② 2…①

# ふる里

このみ  
やじょう  
う

川むかえ地域に正月行事として  
伝承されている「このやじょう」です。  
毎年1月14日の午後から行われてい  
ます。種子島の各地域で実在される  
正月行事です。かいこのまゆににせた

西角に切られた切りもちをやなぎやコヤ  
スギのご枝にさし、門木や家の中の柱にか  
ざり、かいこの豊作を祝います。  
子供たちは歌を歌い、門ごとに祝ってこのみ  
やじょうをもらいます。  
最近では、祝い物の代わりにおかしや菓物ご祝  
義などをいただくことも多くなっています。

種子島ふるさと夏祭り  
西え表市下西「城ノ浜海岸公園」  
で行なわれたふるさと夏祭り下  
す。開演は午後6時から行わ  
れ、会場にはたくさんの出

店もあり、終演までにぎ  
やかな雰囲気におまれ  
最後には打ち上げ花火で終  
わりです。

～ 下西校区新たな道へ ～  
みんなが仲良くて、楽しく  
明るい、すばらしい校区に  
な、てほしい。助け合える  
校区にもな、てほしい。



## ヤクタネゴヨウ

葉が五本あるからゴヨウマツ。  
★300年まで生きるそう。  
★700年まで生きたヤクタネゴヨウ  
もあるそう。

葉は5枚です

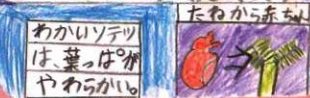
## ヘゴ

葉の光黒いほうはいた  
ねからついています。  
○ヘゴの一部にせんまいという植物がぶつ  
まいます。  
○ヘゴは、大きくなるのがとくとうです。

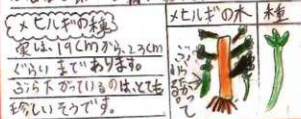


## ソテツ 海のちかくにたく 人生えています。

湊ネ申ネエでは親子ソテツやメス  
オスのソテツがよく見られます。



メヒルギは塩水と真水が交  
わっているところが  
は日本で最北の島に  
あります。



## いばさいい まい年月15日に お祭りをします。

いばさいいは、 ★弓矢 ★食事会 ★エイサーおどり などを行います。	弓矢の意味 ①一本ずつ ②全部あたる ③あまほろ お祭りができる
------------------------------------------------	----------------------------------------------

## トシどん

大晦日のPM6:30から  
トシどんが来ます。  
こわいらイメージがあり  
まが、本当はとてもあつた  
鬼人です。(笑)  
地いさみななア子もたちを  
いっしょに思いが始まりました。  
こしき島から受けつがれたと  
言われています。  
野不夜平で行われます。



(このみやじょう) 冬の1月14日にお

このみやじょうでは子どもたちがこのみやじょうの歌をうたいながら家庭をほう問はす。昔は歌の字だけやっていたが今は、全盲であることになって、おおいこさまを大七にする農業のまつりがこのみやじょうです。



〈えんす祭〉 えんす祭はえんすの木葉に感じやすいため、7月15日に行なわれています。  
お全に海で仕事かておよぶ、また、大い魚を願って、ごちそうを食べます。

国上



夏祭り!



地引きあみをした後のおべん当はとてもおいしいです。とても元気になりました。ぜひ食べてみてください。

2017年に始まった国上夏祭り。とても暑い中、重いあみをみんなと力を合わせて引っ張りあげます。魚がたくさんとれるのでぜひ来てください。



これからも  
自然豊かな  
国上校区

卒業しても、  
国上の一員として  
この自然と伝統  
を受けついで  
いきます。

# ふるさと伊関

小川優人	沖田唯人	杉達佳	前田美結
沖田大空	渡江賢 美花	加藤渾	牧内凜

## ぼくらのまち ～伊関～

西大表市の北東に位置します。海の水がきれいな自然豊かなまちです。市民体育祭や市内一周駅伝では地域一丸となって取り組む、熱いまちです。

と、とても素敵なところがいっぱいあります。

ぜひ、訪ね心にきてください。



## 受けつがれるカシミアの心

明治18年(1884年)9月、種子島の南東沖にアメリカから来たカシミア号がそうなんしました。その船には、15人が乗っていましたが、3人は台風の時海に落ちて死んでしまいました。残った12人は





2つに分かれ7人が立山に5人が伊関に流れつきました。12人とも伊関と安城の人に求救助され、アメリカへ無事帰ることができました。この話を聞いたアメリカ政府は、大変感謝し、伊関と安城の人々に、金メダルと計5000ドルあまりの現金をおくりました。



この話は、今から130年以上前に起こったことです。伊関の人々は先人の美徳とアメリカへの感謝を忘れないために、紀徳祭を行っています。カシミアの心は今でも受けつがれているのです。

美しい海の広がる  
**浜脇海岸**

この海は、カンパ等のラ人を歓迎した海岸です。フリヤやおねごりにもセンターのスポットです。ゴビルトブルーの美しい海です。

<p>海がめは、浜脇海岸に多く上陸します。そのため夏には、無数の足跡があります。</p>		<p>西京川が流れる所は、浜脇海岸です。川</p>
<p>ろには、産らんの様子が見られます。</p>		<p>岸ののどかな風景を楽しむことができます。河口付近には、なぜの建造物跡があります。</p>

おすすめスポット  
**西え表の展望台 木折り坂**

西え表港から北東に約25分。伊関校区にある木折り坂です。見晴らしがよく、伊関校区を一望できます。昔、村役人の娘が国上集落に行く時に、帰りに迷わないようにと木の枝を折りながら登ったので「木折り坂」というそうです。



こんな校区になてほしい ~これからの「伊関」~

私達は、「これからの伊関」に願いが2つあります。

1つ目は、人やお店が増えてほしいです。伊関には、子どもも大人も多々とは言えません。だから、伊関のいいところを知り、たくさんの方が住む町になてほしいです。そして、みんなが楽しめるお店ができてほしいです。

2つ目は、自然を残してほしいです。人やお店が増えながらも、じまんの豊かな自然を守ってほしいです。



# 私のふるさと安納

## 安納のお祭り

安納小学校5・6年生

・日高 大斗	・沖田 俊英
・坂城 愛美	・片瀬 夏
・日高 琉里	・中山 英佑
・山田 花依良	・山田 儀馬
・山田 優愛	・中本 竹寿

### ・夏祭り 六月火灯

安納校区では、大平の安納神社、下郷の馬頭観音、軍場の大山神社で行っている

六月火灯は鹿見島独自のもので暑さをいり気味の祭りであり、作物が豊かに実ることや家内安全を祈る夏祭りである。

実際には、社殿に太鼓が島り響く中で

行か 宮目による  
きょうのおはらい  
後関係者にお玉  
串を奉納して祭典  
は終わる。



### ・このみやじょう

昔養蚕業が盛んだった頃は、蚕が立派なまゆを作りやすくと祈る行事であったが現在では、家のぬえと願い一年の豊作を祈る行事になった。実際には、旧正月に蚕のまゆの形に見立てた切りもちや柳やユズギの小枝に、しん木や桂、都屋のすみずみに飾り子とたたら各家を飾り「登宮城」の歌を歌ってもちもちという行事である

最近では お菓子や  
ごしうぎをくたさる  
家庭も増えてきている。



### ・棒踊り

棒踊りは種子島各地にあるが、特に鹿見島本土より明治になって移入してきた芸能である。

安納の棒踊りは軍場集落に伝承してきたものだが、始良郎加治木町から移住してきた大工石野政蔵氏から習ったものである。

薩摩示現流の流れとくむ気合のちたこの踊りは、激しく勇壮で男性的な踊りである。

青年6人組で構成され、棒と鎌を徳太り踊りは、たぶらとくむ見ごころのあるものである。



### ・ハマ祈とう

月15日～20日に真に実施される集落ごとの祈とうが、氏神に一年間の無事と豊作をきょうしたのち境内で的を弓で射る神事である。軍場では竹の環の的を小弓で射て祝う。

悪魔をはらう呪術的な意味を持つ行事で、的に当たれば今年の運せいは良いとされている。

昔は、全島的に射られていたが、現在では姿を消してしまつた地域も多い。

きょうの後、弓の者た的を小さくせぶ竹のぼうに巻いたものを持ち帰るハマ口に差しおき魔除けとしている。

## 安納に伝わる伝説

### 天女神楽

その昔仁まが国上のみさきの岩を雨に運ぶと中、おめのよい場所で休けいをした後、岩を持ち上げおとしおち、貧しいオヌが切れたため、その岩を運き去りにしてきていた。その後、その岩のなかに天女が隠れおむかひにいたので、天女隠れおむかひといわれるようになった。

### 御立石の河童

安納の九州農業試験場の東のオケテ石という字がある。昔ここに一人の河童さんが住んでいた。ところがそこには河童がいて人がイザリに行くとおあさんの地元のまわりにズラリと並ぶのだが、そのまは、おあさんには見えなかった。

### 手水川

昔、現和と安納の庄屋が目を決めて朝早く、両方から歩いて行き、出会った場所を両府の境界としおと約束した。現和の庄屋は早く出立し、下郷の川で顔を洗っている安納の左屋と出会った。約束どおり、その川を境目とした。それ以来、顔を洗っていた川を手水川と呼ぶようになった。

### 烏帽子嶽

烏帽子嶽は、若火々出見命と豊玉姫にちなむ聖山である。この嶽の石のほとは、現和の近政があり、正八幡彦日々出見命をまつている。お時、近政の轡をかけるのに、烏帽子嶽の石を使えたら、馬が家ごとに走ってしまったという。お時、お時は嶽に短なへびが出たようだ。

## 安納の史跡



天サケ倉神社



安納神社



大山神社



恵比寿神社



ほうそう除けの石



イボの神様



馬頭観音



日高院坂字の墓

# 私たちのふるさと、現和

## 種子島の落花生栽培始まりの地

「とり立ての落花生はうまかる。味はよかし、えいようもあって。それに落花生は現和の農家にとって、すくいすくいの神なんじゃよ。」

「すくいすくいの神。」

「そうじゃよ。落花生のおかげで、現和の農家は豊かになったんじゃよ。」

と言って、おじいさんは、落花生がはじめて種子島にやってきたときの話をはじめました。

—種子島の人・その心（第14話）—  
「落花生物語」より一部抜粋

私たち3・4年生は、現和が種子島で初めて落花生を栽培した場所だと知り、くわしく調べてみました。

最上 宏さんというお医者さんが、鹿屋から落花生をもってきて、現和の人に栽培をすすめたそうです。しかし、カラスに食べられ、うまくできなかったそうです。そこで、古い漁網を集めたり、短冊をつるしたりして畑を守り、うまく栽培できたそうです。最上宏さんの胸像は、市役所の前庭に建てられています。

私たちも、落花生の栽培に取り組んでいます。場所は「種子島落花生栽培初地の碑」のそばです。学校応援団の鮫島さんに教えていただきながら、種をまいたり、育つ様子を観察したりしています。今、花が咲いていた部分が地面にもぐるように伸びていて、不思議です。9月の終わり頃収穫できるそうなので楽しみです。

### 現和検定

☆現和は、室町時代以前は、別名で呼ばれていました。さて、古くは何と呼ばれていたのでしょうか？

☆現和には、殿様への上納品として塩を納めていた地域があります。さて、それはどこの地域でしょうか？



1915年導入住民窮状救済

「恩人」の落花生栽培体験  
西之郷小「たぐきん実を」  
落花生の栽培は、種子島に初めて導入された作物である。その歴史は、1915年に始まる。当時の種子島は、戦災による被害で甚だしく、住民の生活は極めて苦しい状態にあった。この状況を救済するために、政府は落花生の栽培を奨励し、種子島に導入した。この取り組みは、当時の住民にとって大きな救済となった。西之郷小の児童は、この歴史を学び、落花生の栽培体験を通じて、当時の苦しい生活と、落花生の栽培がもたらした救済の歴史を体感している。

【H30. 6. 2付け

南日本新聞記事より】



【7月の落花生畑】

## 現和のために尽くした人々

・**最上宏氏** (西之妻出身)

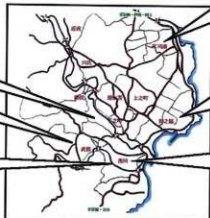
・落花生栽培をすすめた人

・**木原平五郎先生**

・戦争で犠牲になった教育者

・**原田休之助翁**

・福祉の面で功績のあった人



・**孝子「弥五郎」**

・親への孝行で表彰された人

・**弥五郎の嬢「養妻」**

・祖母への孝行で表彰された人

・**田上七芝助翁** (安城出身)

・「田上橋」や「牛馬」で知られた人

(参考)・種子島の人・その心 (西之表市教育委員会編)

・明治百年記念「現和郷土誌」(現和郷土誌編集委)

現和小学校の校長室には、歴代の校長先生の写真が飾られています。その中に一人だけ校長先生ではなかった先生の写真があります。それが木原平五郎先生です。木原平五郎先生は、明治23年9月20日、現和の武部地域に生まれた教育者です。在職29年中、27年間を現和小で過ごしました。

太平洋戦争の終わり頃、昭和20年6月16日、アメリカのグラマン機が現和小学校を襲撃しました。先生は、小学生全員を防空壕に避難させた後、右足大腿部を打ち抜かれ、出血多量のため亡くなりました。その功績をたたえた記念碑が、現和小学校「あこうの広場」にあります。



## 伝統芸能の継承

5・6年生は、現和に伝わる伝統芸能を学習しています。

現和には、虚無僧踊り(上之町)、棒踊り(田之脇)、ヨンシー踊り(庄司浦)、兵児踊り(西俣)、なぎなた踊り(下之町)などの伝統芸能があります。

運動会では、毎年、棒踊りを披露しています。棒踊りは勇壮でスピード感があり、独特のリズムがあります。田之脇地域の方々に直接指導していただき、動きや隊形の意味などを確認しながら表現を磨いています。



## ふるさとの未来

現在の現和は、歴史・文化・自然が調和し、人と人との結びつきがとても強いです。それは、ここで暮らしてきた人々が、苦しさ負けず、努力と工夫をしてきたからだと思えます。社会の様子が変わっても、知恵を働かせ、努力を続け、互いに助け合う現和の魅力はいつまでも続いてほしいです。

# 私たちの 安城 ふるさと

## 有名！鉄浜海岸

鉄浜海岸は、  
浜辺にたくさん  
の砂鉄がと  
れることから  
地名がついて  
います。太平洋に  
面してサーフィンに  
まじら波がてき  
ためサーファーに  
大人気です。また  
世界的にサー  
フンスポットと  
して有名で  
す。

## お客さん殺し

イーストユー  
ストは、大人気  
のお店です。

発行者



内田啓達

まじからは鉄浜海岸の絶景が  
見えます。イーストコーストのこ  
たあたりはなんでもショップ。店主サ  
人ば、なるべく熱いうちにお客  
さんに配ることですね。また、と  
にかんおいしく料理をつくること  
です。と話していました。

みなさんぜひ海岸の絶景  
とともに、絶口料理を味わ  
ってみませんか？

## サーファーに大人気！！

鉄浜海岸ではたくさん人の  
サーファーが波に乗っています。な  
せサーファーに人気なのでは  
う。文達のおかえりがサーファー  
なので聞いてみました。ます  
海がきれい、波がよくある。

砂浜は安全だから初心者か  
ら上級者まで楽しめる。自然の波に  
乗ると、気持ち良く、楽しい。みな  
さんもぜひトライしてみたいとい  
話していました。みなさんぜひ気持ち  
良く波に乗りませんか？鉄浜海岸



## 安城の海

安城に引こして来て四  
か月です。その四月月の中  
安城のあたにかすさを感心  
しました。それは、おいしい  
パンと、もちろん、おがし、りんご  
などのものを安城の人からい  
たたいたうことです。そんな  
安城が、自來しく笑いあ、み  
れ、差別、へん見をしない  
思いやりの心を持つ、平和  
な安城が、ずつと続いてほ  
しいと思っています。

交通ノ西  
之表港から  
車で二十分  
西表市ノト  
ピー九十兵分  
一言ノカニ三市





# 立山

立山校区は今でこそ人口も少ない  
ですが、歴史があり、人々は  
誇りを持っています。



平氏を追ってきた源氏が住み着いたとも言われており、清和天皇をまつた清和神社では、旧暦9月におつや口説きを奉納します！



校区に伝わる郷土  
芸能をこれからも残して  
いきたいと思えます。

射場では、武士が弓の  
練習をしていました。



# 校 区

・明治18年、アメリカの**カシミア号**が難破し、7人が立山に漂着したが手厚くお世話し、お礼として5,000ドルと**メダル**が贈られました。今でも9/15に祭りをしています。



・今後、イベントを考えて、立山に来てくれる人を増やしていきたいです。H28年から「ふるさとまなび〜隊」に来てもらい、交流を楽しんでいます！



小学生に昔の遊びを教えています。



## ～中割校区～

市制施行 60 周年に寄せて：中割今昔物語

中割校区長 奈尾 正友

鹿児島県が出版した「桜島大正噴火 100 周年記念誌」によると、大正 3 年 2 月 12 日に始まった桜島の噴火は、大量の火山灰や軽石・溶岩を噴出、幅 400 メートル・水深約 80 メートルの瀬戸海峡を埋め尽くし、対岸の大隅半島と陸続きとなり、5 集落 700 戸が焼失するなど、日本が 20 世紀に経験した最大規模の噴火と記されています。今想像しても背筋が寒くなるような恐ろしい出来事によって、土地・家屋を失い復旧が困難な 3,000 戸余り約 2 万人が移住を余儀なくされました。その中から移住の先陣を切って、西桜島の横山・赤生原集落の 30 戸 181 人が中割十六番に向かい、最終的には中割に 206 戸 1,300 人が移住したとのことです。

今では近くに種子島空港が開港（平成 18 年 3 月）したことによって、尾根づたいに走る県道も国道なみに整備されていますが、当時は密林状態にあり田畑の開墾・住居の準備など辛苦の極みであった、との記録があります。

近くの県道沿いの丘には月読神社（桜島に現存する神社と同名）を建て、事ある度に集まり故郷を偲ぶのだと言われており、現在も地区民の拠り所として守り続けられています。

移住された方々は地区民と協力し田畑を開き、炭焼きなどにより隆盛を極め、中割の礎を築いてくれた先駆者であったと伝え聞いています。

時は流れ幾多の変遷を経て、過疎・高齢化が進み、今や 46 戸人口 86 人となり、65 歳以上の高齢者率が 48% を超え、小学生 1 人・中学生 2 人・高校生 1 人・未就学児 3 人で、まさに少子・高齢化です。

移住者の子孫もわずか数戸になり、移住の年の秋開校し 2,000 人近い人材が巣立ち、昭和 30 年代頃は児童数が 200 人を超え多くの著名人をも輩出した鴻峰小学校も児童数の激減により、残念ながら移住 100 周年の翌年に廃校となりました。また、校舎の前に威風堂々そそり立ち、シンボルツリーとして親しまれ 90 年近い樹齢を誇っていた五葉松も何かの巡り合わせでしょうか、時を同じくして枯れてしまい、伐採しました。

このように、何かと負の要素が目立つ昨今の中割ですが、残された地区民は「元気で長生き・楽しく笑って過ごそう」を合言葉に、逆境をバネにすべく新たな中割づくりを目指して、ささやかではありますが、様々な取組みを進めています。

〇生姜を植えて人も地域も元気になろう、と H23 年度から生姜の栽培・加工・販売など六次産業化に取り組んでいる生姜山農園、2 年前の 10 月には、閉校となった旧鴻峰小学校の一部を活用し、島内の食材を多く取り入れ、健康志向に配慮したメニューの軽食・喫茶ができるカフェをオープンさせ、賑わっています。



○市から派遣された集落支援員が中心になって、校区内の高齢者団体などを軸にした集まり「楽笑会」を立上げ、「皆が楽しく笑って過ごす活動をすることで、心も体も元気になろう」を合言葉に活動を展開、そうした中に新しい風・若い力を取り込むため島外の大学から留学生等を招き入れ、交流会を行うなど、今中割の高齢者の目は輝いています。

○第13回目となった伝統行事の「鴻峰ふるさと交流大会」は、校区内・外から100名近い老若男女が集い、安納いもの収穫やグラウンドゴルフで賑やかに交流を図ることができました。



また、特筆すべきこととして、100周年を機会に可能な限り砂中地区の方々にも参加を呼びかけ、一緒に行事を行うことで賑やかさが増し、多くの人に喜んでもらっています。

その日の午後は、長い間途絶えていた校区運動会を「ふれあい運動会」と称して復活させ、実施しました。高齢者も参加できる競技を多く取入れたことで、総参加の楽しい一日となりました。

※市は、H27年度から2年間「集落支援員」という役職の方1名を中割に常駐させ、校区内の様々な活動を指導・助言及び支援していただきました。この方のお力によって今の中割は輝いており、覇気が見られます。この状態を持続・発展させるよう、区としての手立てが必要です。

○校区主催「敬老会」では、地元のお母さん方が中心になり急速「どんと会」というグループを立上げ、手踊りや寸劇などを披露し、ご案内した80歳以上23名のご長寿の方々から「こんな楽しい敬老会は初めてだった」という声があり、思い出に残る一日となりました。

○3年前には、十六番の県道沿いに和食を中心に「おふくろの味が楽しめる」お食事処「ヤミー・マミー」もオープンしました。何とかして中割に人の目・人の足を向けてもらい、賑わいを取戻したい、そんな熱い思いが感じられます。

○同じく3年前には、校区内の有志が自主的に集まり、校区内の様々な課題について自由に語り合う「なかわりプロジェクト」を立上げ、廃校になった学校の活用などについて真剣な論議を重ね、校区民の拠り所「過疎地域等集落ネットワーク圏形成支援事業」により「このみね館」をオープンさせ、活用しています。

今年度の大きな課題として、国の施策でもある「集落再編(合併)」問題があります。このことは、2-30年後の中割を考えるとどうしても避けて通れない重要課題です。プロジェクトチームに汗を流してもらいたいです。



○一昨年11月、万波にNPO法人こすも(障害者福祉サービス施設・代表者 松岡勝廣氏)が中種子町浜津脇の旧星原中学校から移転新設されました。この施設は障害者の社会参加を目指し、様々な技能訓練を行うもので、平日は職員を含めると90人程がデイサービス形式で通所し、訓練に励んでいます。今後は校区民との交流を深めつつ、区民の福祉向上にも繋げていければと願っています。

# みんなおいでは古田の祭

## 桜祭り

メジロもまいおるるきれいな桜

川脇川沿いに咲いている、河津桜が  
とてもきれいで、島内からもたくさん人が  
訪れるんだ!!

たくさんのおし物で来場客のみんなが  
笑顔になるんだ!!

おし物の他にも、たくさんのお店で  
みんなの元気がアツアツ!!



うんとも売っているから、  
昼ご飯は、桜を見ながら  
食べよう!!



時期: 2月中旬 春

場所: 中之町

川脇川沿い

## 文化祭

みんなのホトタム文化祭

文化祭では子供から大人までの  
意見発表、地域の人による、歌や  
おどりの発表があるぜ!!

それに色々な方々が作った  
地産地消の野菜のほ乳  
焼き物や、おみものなどの  
展示もあって大盛り上がり  
するぜ!!



時期: 1月下旬(2年1回)

場所: 田中央公民館 冬



私たちが  
願う  
未来の古田



にぎやかで楽しい古田

- ★人口がふえてほしい
- ★地域のイベントをもっとたくさんの人に楽しんでほしい
- ★特産物をもっとたくさんの人に買ってほしい

古田の季節イベント紹介  
はましま楽



古田校区、PRキャラクターの  
2人が古田の季節のイベントを紹介  
します。

古田の季節イベント紹介  
はましま楽



夏

時期：7月中旬  
場所：古田  
曹受神社

## 六月灯

明かりをともす 灯ろうの町

六月灯でかざられている灯ろうの絵は、  
毎年古田小学校の児童がかいていて  
明りとともすとホッと光ってとてもきれいで  
それに、出店や歌やおどりのよまう、  
抽選会もあってとても楽しい  
祭りだぜ!!



祭りの最後に打ち上がる  
花火は、とても大きくてきれい  
だぜ!!

秋

時期：10月中旬  
場所：曹受神社



## 願成就

秋の定番!! 古田の伝統芸能。

願成就で奉納される、しまいやほりおど  
りは、古田の豊作や健康を願う、するおど  
り。なんだ!! しまいにいられると、1年中  
健康に過ごせるといわれているん  
だ!!

各家庭でつくった、かるかんをいろんな人  
にわたすんだ!!  
作る人によつて味や形がちが  
うから楽しんで食べられるん  
だ!! と、とてもおいしいよ!!



### 優しくて愛される古田

- ★ おもいやりあかる町
- ★ 古田の人だけでなく古田以外の人も  
愛される町
- ★ 大好きな古田小学校がある町

編集 古田小学校5・6年生

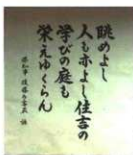
- 下嶋 千夏 ● 高野 みづき
- 山之内 太一 ● 上妻 万葉
- 小井土らひむ ● はましま楽

## 「私のふるさと」 住吉小学校区

### わたしたちの住吉小学校



＜沿革＞  
 明治12年創立  
 創立140周年  
 児童数35名  
 P戸数23戸



鹿児島県知事 後藤多喜蔵氏が  
 詠んだ歌

「眺めよし 人も亦よし  
 住吉の 学びの庭も  
 栄えゆくらん」

は、現在も語り継がれています。  
 涼み台から眺める漁港や海は、  
 最高の景色です。

### 校区の行事



#### ＜蚤宮城＞（このみやじょう）

1月14日の夕方から夜にかけて行われる行事です。子供たちは、蚤宮城の歌を歌い、門ごとに祝って、祝い餅、お菓子などをいただきます。子供たちの持っている「てくてく棒」は、タブノキで作ります。地面をたたいて音を発することによって、魔よけの効果があるとされています。

#### げんごろう ＜源太郎踊り＞



【奉納場所】  
 住吉神社  
 【奉納時期】  
 毎年10月第4日曜日  
 市の無形民俗文化財に指定されています。

#### めん ＜面踊り＞



【奉納場所】  
 深川神社及び深川公民館  
 【奉納時期】  
 毎年10月24日  
 県の無形民俗文化財に指定されています。



## 小学校と校区の合同行事

＜小学校・校区合同大運動会＞

※ 小学校と校区の合同開催（小学校校庭）

＜校区文化祭＞

※ 3年に1回の開催（住吉中央公民館）



## わたしたちが調べた校区のようす 校区探検（3・4年生） 町探検（1・2年生）

＜学校のまわり探検地図（地図記号）＞ ＜学校のまわり探検地図（交通安全）＞



＜学習カード＞



## ふるさとの住吉への思い

住吉の美しい風景がずっと続くように「きれいな町」、「きれいな海」を守ってみたいです。

校区の人々は、わたしたちをいつもあたたかく見守ってくれています。感謝の気持ちを忘れずにたいです。

また、伝統行事をこれまで守り続けてくださっているのです。これからもずっと続けていけるようにがんばります。

「海の生き物たち」2年  
住吉の漁師さんにインタビューしました。とれる魚を知ったよ。

「はじめて見た」2年  
住吉ガジュマルがしおをふせいで家を守ることを知りました。

## 西之表市の歩み

年月	出来事
1889 (明治 22) 年	4月 8つの村を廃止して北種子村と改称
	6月 安納、沖ヶ浜田を伊関学校区に変更
1890 (明治 23) 年	5月 種子島、屋久島に命令航路開設
	両国丸 (100 t) にて月 2 回航海
1892 (明治 25) 年	3月 浜松校を下西尋常小学校と改める
	4月 現和校、尋常となる
	11月 立山校、安城校の分校となる
1893 (明治 26) 年	4月 古田、上西、住吉校、尋常となる
1894 (明治 27) 年	4月 下中前の浜に英国船ドラムエルタン号漂着
1895 (明治 28) 年	6月 裁判所種子島出張所 開庁
1896 (明治 29) 年	10月 収税署を西之表に設置
	11月 収税署を廃し、種子島税務署となる
1897 (明治 30) 年	4月 安城小学校の立山分校独立
	農会法に基づき、北種子村農会 設立
	9月 北種子郵便局、電信事務開始
1898 (明治 31) 年	5月 庄司浦部落、現和校区に編入
1901 (明治 34) 年	4月 立山小、尋常小学校となる
	5月 種子島産牛馬組合 設立
1903 (明治 36) 年	1月 鹿児島樟脳事務局出張所、西之表に開所
1904 (明治 37) 年	— 鹿児島専売支局、種子島出張所 開設
1905 (明治 38) 年	1月 北種子村婦人会結成
	4月 鹿児島塩務局出張所、西之表に開庁
	北種子村青年団結団
1908 (明治 41) 年	1月 消防組が組織され、金屋小路に番所を置く
	4月 裕城、伊関、安城、古田小学校 修業年限を 6 年に延長
	— 北種子村人口 13,646 人
1912 (大正 1) 年	8月 種子島定期家畜市場 開設
1913 (大正 2) 年	3月 種子島電気株式会社 設立
	西之表商工団 発足
1914 (大正 3) 年	1月 桜島爆発 (大正の大噴火) 爆発音、噴煙を西之表でも確認
	3月 桜島大噴火により被災した住民が、国上桜園、西之表桃園、西之表竹鶴、古田平松、古田大枯木、古田屋久川、安城中割、安城野木小野に移住
	1915 (大正 4) 年
1917 (大正 6) 年	7月 鹿児島銀行種子島支店 営業開始
1919 (大正 8) 年	7月 北種子村養蚕組合 結成
1923 (大正 12) 年	11月 村営火葬場 落成

		北種子村人口 19,017 人 戸数 3,937 戸
1924 (大正 13) 年	3 月	西之表茶業組合 結成
1925 (大正 14) 年	10 月	種子鉄同業組合 結成
1926 (大正 15) 年	3 月	鹿児島県立第一鹿児島中学校分校、西之表に設立
	4 月	西之表町制実施 北種子村を西之表町に改称
	—	人口 19,304 人 戸数 3,935 戸
	—	初代町長 中村良一郎氏 就任
1927 (昭和 2) 年	7 月	熊毛支庁 設置
	3 月	西之表酪農組合 結成
	11 月	西之表細菌検査所 設置 日葡親善の碑、建碑式
1929 (昭和 4) 年	3 月	県立一中種子島分校が独立して鹿児島県立種子島中学校となる
	—	町長 鮫島鉄馬氏 就任
1930 (昭和 5) 年	11 月	西之表町競馬会 創立
1931 (昭和 6) 年	—	町長 河東祐五郎氏 就任
1932 (昭和 7) 年	—	種子島のウシウマ 文部省より国の天然記念物に指定
	—	西之表町人口 21,147 人
	—	町長 三浦安能氏 就任
1933 (昭和 8) 年	7 月	西之表町役場 竣工
1935 (昭和 10) 年	6 月	電話開通
1936 (昭和 11) 年	8 月	町長 榎本小右衛門氏 就任
1938 (昭和 13) 年	11 月	鹿児島職業紹介所西之表出張所 設置
1941 (昭和 16) 年	4 月	満州入植国策移民、西之表から 20 戸入植 種子島灯台竣工
	12 月	西之表町森林組合 設立
	11 月	西之表に特設警備大隊駐屯のち特設連隊と増強される 西之表保健所設置
	—	西之表町人口 22,422 人
1945 (昭和 20) 年	3 月	西之表市街地への米軍機による爆撃 銃撃が始まる
	4 月	島の小学校児童 2～6 年生全員が伊佐大口方面に疎開開始
	6 月	種子島独立混成 109 部隊 12,000 名 古田中割地区に駐屯 町民を動員して中割、鍋割地区に陣地の構築が始まる
	8 月	終戦
	9 月	種子屋久航路、汽船の運航解禁
	10 月	疎開児童、順次帰島
1946 (昭和 21) 年	5 月	町長 最上宏氏 就任
	7 月	農林学校を西之表町から県に移管し、鹿児島県立種子島農林学校に改称
	10 月	西之表町選挙管理委員会 発足
		西之表町農地委員会 設置

1947 (昭和 22) 年	11 月	民生委員制度 実施
	3 月	農林省農事試験場種子島試験地を安納に置く
	4 月	西之表商工会が、西之表町商工会となる 国民学校を小学校に改める 国上、現和中学校 開校
1948 (昭和 23) 年	5 月	裕城、安城、古田、住吉中学校 開校
	8 月	西之表町営授産所 落成
	4 月	種子島中学校、農林学校、高等女学校が種子島高等学校となる 西之表町農業協同組合 設立 西之表町畜産農業協同組合 設立
	5 月	種子島測候所西之表分室竣工 観測を開始
	6 月	新造船照国丸 (1,000 t 就航)
1949 (昭和 24) 年	7 月	西之表町立種子島図書館 設置
	12 月	裕城小学校で給食が始まる
	4 月	種子島区検察庁 発足 県立種子島農業高等学校、県立種子島高等学校と称す
	6 月	電気通信省設置に伴い、種子島郵便局より種子島電報電話局 分離発足
1950 (昭和 25) 年	9 月	種子島高等学校 (男子部) に女子部普通科を收容し、男女併学となる — 終戦よりの移住民 (国上 34 戸、安城 48 戸) 入植
	2 月	西之表町種子島酪農農業組合 設立 — 種子島のウシウマ (国の天然記念物) 絶滅
1951 (昭和 26) 年	4 月	町長 西村健夫氏 就任
1952 (昭和 27) 年	1 月	西之表町上水道 起工
	3 月	西之表西浜伏 (鴨女町) に町営伝染病隔離病舎 竣工 馬毛島開拓団 入植決定
	7 月	馬毛島に裕城小学校分校教場を置く
	10 月	西之表町教育委員会 発足
	12 月	種子島交通株式会社 発足 島内のバス運行を始める
1953 (昭和 28) 年	10 月	失業対策事業 城ノ浜整地事業 起工
1954 (昭和 29) 年	3 月	西之表町上水道 通水
1955 (昭和 30) 年	1 月	種子島航が県文化財に指定
	3 月	西之表町役場庁舎 竣工
	4 月	裕城中学校馬毛島分校 開校 鹿児島労働基準監督署熊毛分室 設置
	11 月	西之表町慰霊塔 竣工
1956 (昭和 31) 年	3 月	洲之崎地区市街地 造成 (4,373 坪) 種子島電報電話局 新局舎 竣工



種子島交通 (昭和 30 年代)



わかさ公園慰霊塔竣工式

1957 (昭和 32) 年	5月	住吉灯台 竣工 (無人式 8,500 燭光)	
	9月	天神橋 竣工	
	12月	鴨女町市街地造成 終了 (18,429 坪) — 西之表町人口 33,066 人	
1958 (昭和 33) 年	5月	旧農協建物 (東町) を借用し、西之表町中央公民館及び西之表町図書館を開設 消防会館 竣工	
	4月	日蝕観測好天に恵まれ、成功	
	6月	町営火葬場 竣工 (西之表新城) 種子島観測所新庁舎 竣工 (洲之崎)	
1959 (昭和 34) 年	10月	市制特例法により西之表町、市制を施行 初代市長 西村健夫氏 就任 (~昭和 34 年 4 月) 西之表市福祉事務所 発足	
	—	人口 33,546 人 6,454 世帯	
	2月	西之表市菅安納飛行場 開設	
	3月	西之表市立かもめ保育所 開設	
	4月	第 2 代市長 最上宏氏 就任 (~昭和 35 年 2 月)	
1960 (昭和 35) 年	5月	気象観測レーダー (十三番) 観測開始	
	7月	西之表市観光協会 発足	
	4月	住吉簡水 供用開始	
1961 (昭和 36) 年	6月	西之表市青果市場 開設 西之表港、重要港湾に指定	馬毛島丸
	4月	第 3 ~ 5 代市長 名越不二郎氏 就任 (~昭和 48 年 4 月)	
	12月	「橋丸」に代え、「屋久島丸」(1,150 t) 就航 — 財政再建準用団体となる (~昭和 38 年)	
1962 (昭和 37) 年	3月	鹿児島・種子屋久間に日発航路実現	
	4月	下石寺簡易水道 供用開始 種子島簡易裁判所 落成	
	10月	喜志鹿崎灯台 点灯 (85 万燭光)	
1963 (昭和 38) 年	11月	西之表市と大口市、菱刈町との姉妹都市盟約	馬毛島丸
	4月	安城簡易水道 供用開始	
	10月	第 1 回種子島鉄砲まつり開催 (鉄砲伝来 420 周年記念)	
1964 (昭和 39) 年	11月	西之表・馬毛島間に馬毛島丸 (19 t) 就航	
	3月	現和簡易水道 供用開始 種子島文書、県文化財に指定	
	4月	馬毛島榕城小中分校が独立し、馬毛島小中学校となる 国の総合庁舎、西之表小牧に竣工	
1965 (昭和 40) 年	6月	古園団地 造成終了 (9,000 坪)	
	4月	古田簡易水道 供用開始	

鴨女町営住宅 (昭和 30 年代)

西之表町公民館・図書館

市制施行を祝う人文字  
(榕城小学校)

馬毛島丸

	11月	市立保育所を市立保育園と改称(定員90名)
	12月	鉄砲音頭 発表
1966 (昭和41)年	2月	住吉上能野に、し尿処理場 完成
	6月	安納飛行場 廃港
	11月	種子島中央青果株式会社 発足
1967 (昭和42)年	2月	鹿児島県種子島合同庁舎 竣工
	4月	西之表市消防署 発足
	9月	市営公益質屋 廃止
1968 (昭和43)年	3月	武部「種子島大踊り」と横山「盆踊り」が、県の無形文化財に指定
	9月	市営総合グラウンド完成
	10月	市制施行10周年記念式典
1969 (昭和44)年	1月	市立種子島博物館 設置
	4月	市消防署救急業務 開始
	7月	ごみ焼却場 操業開始(処理能力1日8t)
	9月	丸木舟製作完成進水式(国の重要民俗資料)
1970 (昭和45)年	4月	旧電報電話局跡に市立種子島博物館 開館 安城、安納にへき地保育所 設置
	7月	フェリー「わかさ丸」(943t) 就航
	12月	「能野焼」を「種子島焼」として復活
1971 (昭和46)年	3月	西之表新港待合室 完成
	4月	現和、住吉にへき地保育園 設置
	5月	住吉キャンプ場オープン 深川「めん踊り」県無形文化財に指定
	8月	関西汽船「浮島丸」初寄港 1970年万博のポルトガル国展示品「海の男の像」が友好の証として寄贈され、西之表新港広場に建立
1972 (昭和47)年	2月	市民会館 落成 市立図書館を市民会館2階に移転
	4月	鴨女児童館 開館 市立国上保育園 設置
	11月	フェリー「第二屋久島丸」(2,214t) 就航 皇太子ご夫妻が初めて種子島をご視察
1973 (昭和48)年	2月	初めての交通信号機2機 設置(種子島郵便局前、池田三文字)
	4月	古田へき地保育園 設置 第6~8代市長 井元正流氏 就任(~昭和60年4月) 「浮島丸」の代船「沖之島丸」 就航
	10月	市制施行15周年記念行事 市立種子島博物館に、国内初の鉄砲、火薬展示室が完成
1974 (昭和49)年	3月	市営プール完成(50m、8コース)






消防会館  
(現在の西之表分団詰所跡)



西之表新港広場の「海の男の像」




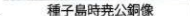

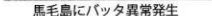


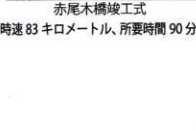
種子島大踊り

		中央墓地公園 完成	
1975 (昭和 50) 年	10月	高浜橋 竣工	
	12月	武部の「種子島大踊り」国の無形民俗文化財に指定	
	2月	大阪・種子島間に東亜国内航空がYS-11(60人乗り、1日1往復)直行便を開 西之表市土地開発公社 設立	
	3月	西之表市漁業協同組合 発足	
1976 (昭和 51) 年	4月	県道西之表南種子線が国道(58号)に昇格 西之表・屋久島間に「佐多丸」(135t)が就航(定員90人、所要時間3時間) 市立住吉保育園が認可保育所となる	
	7月	勤労青少年ホーム 開設	
	8月	天神橋(長さ48.6m、幅14m) 完成	
	9月	西之表港内の公有水面埋立地を「柴町」と定める	
	3月	安納簡易水道 完成 SL蒸気機関車譲渡式 旧池田港跡地に種子島産業会館が完成	
1977 (昭和 52) 年	2月	古田で積雪7cmを観測	
	5月	豪雨のため甲女川が氾濫、水源地冠水(130ミリ)	
	10月	種子屋久間にアイランダー機(1日2往復)就航	
1978 (昭和 53) 年	11月	鷗橋(長さ58m、幅7.5m) 完成	
	7月	浦田キャンプ場、海水浴場 オープン	
	10月	市制施行20周年記念式典(市の花木制定) 「花」てっぽうゆり、「木」あこう、「花木」ぶっそうげ、「蝶」ツマベニチョウ	
1979 (昭和 54) 年	4月	国上簡易水道 完成	
1980 (昭和 55) 年	8月	天神沖埋立工事 完成	
	3月	馬毛島小・中学校 休校	
	4月	馬毛島定期航路 運航休止 馬毛島の全島民が離島、無人島となる 市立若宮保育園 開園、鶯女保育園 閉鎖 種子島公設地方卸売市場 業務開始	
1981 (昭和 56) 年	3月	馬毛島渡船業務廃止	
	4月	嘉永山公園 オープン	
	12月	し尿処理施設「西京苑」 竣工	
1982 (昭和 57) 年	3月	伊関へき地保育所 完成	
	4月	牧之峯飲料水供給施設 給水開始	
1983 (昭和 58) 年	3月	深瀬瀬田地を桜が丘団地に改称	
	4月	移動図書館車 運行開始	
	5月	市老人福祉センター 開館式	
	11月	種子島開発総合センター オープン ポルトガル国帆船「サグレス号」来島	

わかさ公園にSL設置

天神沖埋立工事

サグレス号来島



1984 (昭和 59) 年	3月	岳之田簡易水道 竣工	
	4月	国土法に基づく地籍調査 開始	
	7月	種子島時堯公銅像 除幕式	
	12月	若狭姫歌碑 除幕式 (短歌 海音寺潮五郎)	
1985 (昭和 60) 年	2月	勤労者体育センター野球場完成	
	3月	西之表斎苑 完成	
	4月	第9～11代市長 榎本修氏 就任 (～平成9年4月)	
	7月	田之脇簡易水道 竣工	
	8月	カシミア号 100周年紀徳祭	
1986 (昭和 61) 年	11月	馬毛島林野火災 (落雷により出火、230ha 焼失)	
	12月	非核西之表宣言	
	4月	柳原部落移住百周年記念祭 街路中央線 供用開始 西京ダム湛水式	
	6月	暴力追放宣言	
	9月	馬毛島にバッタ異常発生 平山部落移住百周年記念祭 鶯女町沖公有水面埋立事業竣工認可	
1987 (昭和 62) 年	10月	大阪府堺市と友好都市盟約 久保田・鞍野・野木平・川氏部落移住百周年記念祭	
	6月	西京ダム、本格的貯水開始 (10月、満水となる)	
	10月	滋賀県長浜市と友好都市盟約	
1988 (昭和 63) 年	12月	フェリー「わかさ丸」引退 フェリー「出島」(1518.7t) 就航	
	3月	「種子鉄」鹿児島伝統工芸品に指定 西京ダム通水式	
	4月	熊毛地区消防組合 (政令指定) 発足	
	6月	鶯女町沖公有水面埋立工事 完成	
1989 (平成 1) 年	9月	赤尾木橋 (長さ 92.5m、幅 13.5m) 竣工式	
	10月	市制施行 30周年記念式典 (市民の歌制定) 市民体育館竣工落成式	
	3月	上水道西京浄水場 完成	
	4月	西之表市シルバー人材センター 発足	
	7月	ジェットフォイルトッピー (170t) 就航 (定員 265人、時速 83キロメートル、所要時間 90分)	
1990 (平成 2) 年	11月	種子島特産品協会 設立	
	12月	西之表市宇宙科学少年団 結団	
	3月	熊毛地区消防組合「西之表消防署」新庁舎 完成	
	8月	南部簡易水道新設事業 開始	
	11月	アリモドキソウムシ 発生確認	







1991 (平成3) 年	3月	古田地区「からいも交流」実施	
	7月	よきの海水浴場 オープン	
1992 (平成4) 年	2月	櫻本修市長 ポルトガル国公式訪問	
	3月	「大的始式」県指定文化財に指定	
	4月	大阪～種子島路線 (日本エアコミューター) 運航開始	
1993 (平成5) 年	11月	海中展望船「まんぼう」就航 (住吉港周辺)	
	3月	救急用ヘリコプター離着陸場 完成 「種子包丁」鹿児島県伝統工芸品に指定	
	9月	鉄匠 八板金兵衛清定の銅像 完成 ポルトガル帆船「サグレス号」来島	
	10月	ヴィラ・ド・ビスポ市と姉妹都市盟約調印式 鉄砲伝来 450 周年記念式典 ポルトガル共和国 マリオ・ソアレス大統領が種子島を訪問	
	11月	奥ノ仁田遺跡より縄文草創期配石、集石遺構隆帯土器が出土 鹿児島・種子島間に大型貨物フェリー「新種子島丸」就航	
	12月	種子島漁協 発足 (西之表市漁協、中種子町漁協広域合併)	
	1994 (平成6) 年	2月	
4月	ジェットfoil「トッピー」が指宿への寄港を開始		
5月	南部簡易水道事業 完成、給水開始		
1995 (平成7) 年	2月	西之表市消防団 日本消防協会最高栄誉賞「まとい」受賞 印鑑証明システム導入、稼働	
	4月	ジェットfoil「トッピーⅢ」就航、宮崎航路を開始	
	9月	西之表市農業管理センター 業務開始	
	12月	馬毛島小・中学校 廃校 西之表市シルバーワークプラザ 完成	
	1996 (平成8) 年	2月	
4月	市指定ゴミ袋によるゴミ収集を開始		
7月	あっぱ〜らんど 開園		
10月	HOPE 着陸場馬毛島建設促進期成会 設立		
12月	市役所新庁舎 完成		
		市役所旧庁舎	市役所新庁舎
1997 (平成9) 年	4月	第12・13代市長 落合浩英氏 就任 (～平成17年2月)	
	7月	種子島森林組合 発足 (西之表市と中種子町が広域合併)	
1998 (平成10) 年	2月	県道野間十三番西之表線に古田バイパス完成	

1999 (平成 11) 年	3月	浦田海水浴場にシーサイドハウス 完成			
			古田バイパス	シーサイドハウス	
	7月	榎本修元市長、ボルトガル勲章受章			
	9月	落合浩英市長、種子島火縄銃保存会会員らボルトガル国訪問			
	10月	市制施行 40 周年・からいも伝来 300 周年記念事業 実施			
	3月	西之表市保健センター「すこやか」落成式			
	6月	種子島地区介護保険組合設立 (1 市 2 町)			
	7月	第 1 回種子島サンセット車いすマラソン大会 開催 種子島鉄砲まつり 30 周年記念・ザビエル上陸 450 周年記念「第 30 回種子島鉄砲まつり」開催			
	2000 (平成 12) 年	3月	種子島トンネル開通式及び岳之田バイパス供用開始		
		4月	全日本級別サーフィン選手権大会 開催		
5月		全国一斉ウォークラリー大会 in 西之表開催 貨物船「新さつま」就航			
7月		西之表市防災行政無線開局式 種子島地区広域事務組合設立 (1 市 2 町)			
8月		あっぱ〜らんど開園記念事業 開催			
		あっぱ〜らんど	大的始式 (県指定文化財)		
2001 (平成 13) 年	1月	西之表市大的始式 500 年目			
	3月	西之表市立鴻峰小学校 休校			
	8月	現和「かざもと橋」開通			
	9月	最大時間雨量 126mm の集中豪雨を記録 (種子島測候所)			
			集中豪雨災害		

2002 (平成 14) 年	11月	県下一周市都对抗駅伝競走大会「熊毛特別大会」開催		
	4月	西之表市立学校給食センター「のびっこ」供用開始		
2003 (平成 15) 年	10月	種子島地区任意合併協議会 設置		
	11月	西之表市・大口市・菱刈町姉妹都市盟約締結 40周年記念事業 実施		
2004 (平成 16) 年	10月	種子島地区任意合併協議会 解散		
	1月	西之表市「さつまいも地域資源再生特区」を申請、同年3月認定		
2005 (平成 17) 年	2月	移動図書館車「あおぞら号」出発式		
	3月	種子島サーフィンアイランドシンポジウム 開催		
	7月	ごみ有料化に伴う分別収集開始		
	11月	国の種子島合同庁舎落成		
	12月	フェリー「プリンセスわかさ」、高速船「ロケット」就航		
	2月	第14～16代市長 長野力氏 就任 (～平成29年2月)		
	6月	鹿児島～種子島航路にフェリー「ぶーげんびりあ」が就航		
	2006 (平成 18) 年	3月	「カシミア橋」供用開始 新種子島空港 開港式	
		4月	楽習・交流プラザ「たねっこ」開催 コミュニティバス 運行開始 新設種子島高等学校 開校式 YS11型機 種子島～鹿児島線 引渡 種子屋久農協開業 (西之表農協、鹿児島くまげ農協、屋久島農協が合併)	
	2007 (平成 19) 年	6月	第1回 TANEGASHIMA CUP ヨットレース 開催	カシミア橋 (西之表南種子線)
11月		市文化協会創立 35周年記念「市民文化祭」 種子島高等学校創立 80周年記念式典		
3月		西之表市立若宮保育園 閉園式		
2008 (平成 20) 年	9月	第60回種子島実業高等学校・第2回新設種子島高等学校合同体育祭 (種子島実業高等学校は最後の体育祭)		
	1月	種子島産婦人科医院 開院		
	3月	種子島高等学校・種子島実業高等学校 開校式 国内最大の豪華客船「飛鳥II」が西之表港新埠頭に初寄港		
				
		飛鳥II	産婦人科医院開院	
				
			西之表港中央地区埠頭	

2009 (平成 21) 年	6月	市制施行 50 周年記念事業 NHK ラジオ番組「民謡をたずねて」公開録音
	8月	市制施行 50 周年記念事業「鉄砲伝来 今よみがえる 種子島」全国火縄銃大会を開催、全国各地から 22 の鉄砲隊が集結
	10月	市制施行 50 周年記念式典開催
	3月	市内 6 中学校 (安城・国上・現和・住吉・古田・榕城) が閉校
2010 (平成 22) 年	4月	種子島中学校 開校 鬼ヶ野遺跡 (安城上之町) 出土品が県有形文化財に指定 種子島産婦人科医院組合 設立
	9月	種子屋久海域に大量の流木が漂流
	3月	西之表港新旅客待合所完成
2011 (平成 23) 年	8月	ポルトガル帆船「サグレス号」が 17 年ぶりに入港 第 3 回全国離島交流中学生野球大会 (種子島開催) において、種子島中学校が準優勝
	11月	日補修好条約 150 周年を記念にジャパンウィーク (国際親善協会主催) へ参加、ウィラ・ド・ビスポ市 (ポルトガル) を訪問
	3月	安城保育園 閉園
	4月	全国瞬時警報システム (J-ALERT) 運用開始 社団法人西之表市農業管理センターが公益社団法人西之表市農業振興公社に名称変更 光通信網開通
2012 (平成 24) 年	6月	高速船事故想定集団災害訓練実施
	7月	第 1 回種子島ふるさと交流大会 (島内外 140 人参加)
	11月	ドクターヘリ運航開始
	12月	一般廃棄物処理施設火入れ式
	1月	新たな地域公共交通「どんがタクシー」「わかさ姫」試験運行開始
	2月	公立保育所民間移管に伴う協定調印式 (社会福祉法人国上会、社会福祉法人現和会、社会福祉法人住吉がじゅまる会) かもめ児童館リニューアルオープン 新移動図書館車「おおぞら 2 号」お披露目セレモニー 月窓亭入館者 1 万人突破
	3月	種子島清掃センター竣工式典
		 ふるさと交流ゴルフ大会
		 一般廃棄物処理施設

2013 (平成 25) 年	4月	<p>国上みさき保育園、現和みどり保育園、住吉さくら保育園開園 種子島産婦人科医院 1,000 人目の赤ちゃん誕生 県立中種子養護学校高等部開設</p>		
	5月	西之表市消防団女性分団設立		
	6月	市民体育祭 50 周年記念特別巡回ラジオ体操開催		
	9月	第 100 回西之表市畜産共進会記念畜産フェスタ		
	10月	第 50 回市民体育祭		
	11月	長浜市・西之表市歴史・文化による眺望会事業「鉄砲と宇宙が結ぶ友好の輪」		
	3月	西之表市立伊関小学校新校舎完成		
	8月	第 35 回中学校軟式野球大会で種子島中学校が全国制覇 (愛知県で開催)		
	10月	古田獅子舞伝承 100 周年記念事業		
	2014 (平成 26) 年	4月	桜園集落創立 100 周年記念式典	
6月		長浜市と災害応援協定締結		
8月		第 7 回全国離島交流中学生野球大会で種子島中学校が初優勝 伊佐市と災害応援協定締結		
10月		桜島移住中割史 100 周年記念事業		
2015 (平成 27) 年	3月	市立古田保育園卒園・閉園式 市立立山小学校卒業・休校式 市立鴻峰小学校閉校式		
	5月	西之表市商工会にぎわい創出プレミアム 商品券発行セレモニー (販売所開設)		
	7月	西之表市子育て支援センター「にこここひろば」オープン	子育て支援センター「にこここひろば」	
	10月	社会保障・税番号 (マイナンバー) 通知開始		
	11月	第 30 回国民文化祭西之表市主催事業「華道の祭典 in 種子島」 第 30 回国民文化祭西之表市主催事業「黒潮文化交流の祭典」		
				
		華道の祭典 in 種子島	黒潮文化交流の祭典	
	2016 (平成 28) 年	1月	市民会館リニューアルセレモニー 西之表市汚泥再生処理センター「西京苑」竣工式 西之表市で 37 年ぶりの積雪	
		3月	西之表市・伊佐市交流記念事業 戦後 70 年学童疎開記念誌「つなぐ・語り継ぎたい想い」完成発表会	
		4月	新たに市内 4 か所に放課後児童クラブ開設 (めいろう・国上・古田・住吉) 新種子島産婦人科医院竣工式典	

2017 (平成 29) 年	5月	第1回あっぱ〜らんどウォーキング大会	
	7月	商店街まちかどインフォメーションセンターオープン	
	10月	鹿児島海上保安部種子島保安署設置	
			新種子島産婦人科医院
		あっぱ〜らんどウォーキング大会	
	3月	第17代市長 八板俊輔氏就任	
		第30回たねがしまロケットマラソン (ラストラン)	
	4月	放課後児童クラブ開設 (現和) 榕城分団・女性分団結所竣工式	
	5月	鹿児島県総合防災訓練 (西之表市開催)	鹿児島県総合防災訓練
	6月	旧上妻家住宅一般公開	
2018 (平成 30) 年	7月	津波発生時における緊急避難所として保育園と協定締結 (若宮保育園、平和の園保育園)	
	9月	第10回鹿児島県女性消防団員研修会 (西之表市開催) 日本学術会議公開シンポジウム 日本プロサーフィンツアー「サーフアイランド種子島プロ」開催	
	10月	地域活性化拠点施設「こうのみね館」オープン	
	11月	種子島西之表市いけばな展	
	1月	羽生善治竜王国民栄誉賞受賞	
	9月	ジロ・デ・種子島 2018 開催	
		市制施行 60 周年記念式典 (台風 24 号接近に伴い中止)	サーフアイランド 種子島プロ
	10月	「市制 60 年の歩み」、「私のふるさと」パネル展示を実施 鹿児島県考古学会秋季大会を種子島で初開催 馬毛島遺骨収集調査を実施 1人分の人骨を発見	
	11月	市制施行 60 周年記念事業として「ふるさとフェスタ」、「商工フェスティバル」、「郷土芸能フェスティバル」、「種子島西之表市いけばな展」を同時開催	
	12月	市制施行 60 周年記念事業として「NHK おかあさんといっしょ 宅配便ガラピコぶ〜小劇場」を開催	
2019 (平成 31) 年	1月	姉妹都市盟約締結 25 周年を記念して市民訪問団 17 名がポルトガル共和国ヴィラ・ド・ピスポ市を訪問	
	2月	東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会においてポルトガル共和国のホストタウンとして登録 第 30 回にしのおもて市民フェアで特別講演「種子島から世界へ - 西村天囚の偉業 -」を実施	
	3月	市制施行 60 周年記念事業「歴史シンポジウム 種子島と東アジア海域」を開催	

# 思い出のアルバム (表紙に使用した写真)



市制施行を祝した榕城小学校による人文字 (昭和33年)



西町 (昭和30年代頃)



東町 (昭和30年代頃)



雲之城から旧天神橋を望む (昭和30年代頃)



西之表市街地 (昭和30年代頃)



西之表旧港 (昭和30年代頃)



西之表旧港 (昭和30年代頃)



市営飛行場 (昭和30年代頃)



中央映画劇場 (昭和30年代頃)



東洋館 (昭和30年代頃)



西之表東映 (昭和30年代頃)



フェリーでの別れを惜む島民 (昭和40年代頃)



フェリーでの別れを惜む島民 (現在)



池田三文字信号機設置 (昭和48年)



鉄砲館竣工 (昭和58年)



鉄砲まつり (昭和 54 年)



鉄砲まつり (昭和 62 年)



鉄砲まつり (昭和 62 年)



鉄砲まつり (昭和 62 年)



赤尾木橋竣工 (昭和 63 年)



市民体育館竣工 (昭和 63 年)



叱咤 銃兵衛  
火縄銃兵衛名前決まる  
(平成 5 年)



鉄砲伝来 450 周年記念式典  
(平成 5 年)



市役所庁舎落成 (平成 9 年)



からいも伝来 300 周年記念式典  
からいもサミット (平成 10 年)



第 1 回種子島サンセット車いす  
マラソン大会 (平成 11 年)



500 年目の大的始式  
(平成 13 年)



種子島集中豪雨 (平成 13 年)



フェリープリンセスわかさ・高  
速船ロケットが就航 (平成 17 年)



新種子島空港開港 (平成 18 年)





新設種子島高校開校(平成18年)



第1回TANEGASHIMA CUP  
ヨットレース(平成18年)



種子島近海に大量の漂流木、漁協  
や船主会が回収作業(平成21年)



市制施行50周年記念式典  
(平成20年)



種子島中学校開校(平成21年)



月窓亭一般公開(平成22年)



ちろの会による語り部  
(平成22年)



離島甲子園種子島開催(平成22年)



離島甲子園種子島中準優勝  
(平成22年)



公共交通「どんがタクシー」、「わ  
かさ姫」運行開始(平成24年)



西京苑竣工(平成27年)



国民文化祭「華道の祭典 in 種子  
島」開催(平成27年)



国民文化祭開催(平成27年)



種子島産婦人科医院竣工  
(平成28年)



まちかどインフォメーションセン  
ターオープン(平成28年)

## <市民憲章>

わたしたち西之表市民は、郷土の自然と伝統を愛し、  
明るく発展するまちをつくるために手を取りあい、次のことを実行しましょう。

- ◇わたしたちは、楽しい家庭と平和なまちをつくりましょう。
- ◇わたしたちは、いつも希望をもち、元気で働くまちをつくりましょう。
- ◇わたしたちは、きまりを守り、住みよいまちをつくりましょう。
- ◇わたしたちは、豊かな情緒と、知性あるまちをつくりましょう。
- ◇わたしたちは、若い力を伸ばし、生き生きとしたまちをつくりましょう。

(昭和43年10月1日制定)

## 西之表市民の歌

(昭和63年制定・市制施行30周年)

作詞：今里 修

作曲：木村雅信

- 一、 黒潮はるか 波間から  
東海沖に 日が昇る  
笑顔明るく 交しあい  
西之表は はつらつと  
幸せ求め 明けるまち

- 二、 文化の香り偲ばせて  
赤尾木城に夢が湧く  
心一つに励みあい  
西之表は いぎいきと  
豊かな実り 築くまち

- 三、 のぞみ希望を胸に たゆみなく  
あこが榕のように たくましく  
ともに手と手を握りあい  
西之表は 洋々と  
未来へなおも 伸びるまち

(編集・発行) 西之表市・西之表市市制施行60周年記念事業実行委員会



